

2月1日(木)~3月2日(金) 満月セレクト

— 今回のセクター ご紹介 —

Music Selector : 小山 雅徳



小山 雅徳

Kevin Ayersの「不思議のヒット・パレード」(原題: Odd Ditties)に触発されて、世界中を音楽で旅する神奈川県生まれの男。2000年にブラジル、アルゼンチン、ウルグアイ音楽への偏愛を「Musica LocoMundo(ムジカ・ロコムンド)」という書籍にて吐露。現在、約20年近く継続しているDJチーム「バミューダ・トライアングル」にて選曲活動、同名のFM番組も毎週火曜日FM FUJにて放送中。今回は、春への息吹を感じるサウンドをセレクトしました。

今回のセレクトCD

1.



Brinsley Schwarz / The New Favourites Of Brinsley Schwarz (Warner / WPCR-17026)

ニック・ロウが在籍していた愛すべき英国バブルック・バンドの1974年発表の最終作。バンク前夜の英国を感じさせるパワーポップな名曲「Peace, Love & Understanding」を筆頭に甘いも辛いも苦いも渋いもすべて揃った名作。プロデュースを担ったデイヴ・エドマンズの手腕も高く評価されており、愛嬌あるジャケットに包まれたすてきな音の玉手箱のようです。

2.



Van Morrison / Versatile (Versatile / Caroline 6705335J)

R&Bの名曲をカバーした前作「Roll With The Punches」から、驚きの3か月後にリリースされたサー・ヴァン・モリスンの2017年最新作。こちらは、フランク・シナトラ、チェット・ベイカー、ナット・キング・コールなどのジャズ・ジャイアンツの名曲を余裕たっぷりにカバー。いぶし銀の声とともに彼が吹く暖かなサックスの音色も大きな魅力のひとつ。

3.



Heron / Heron (Wasabi / WSBAC-0040)

誰が言ったか、英国の木洩れ日フォーク名盤、なかなか的を得た表現に感心する。彼らの1970年の記念すべきデビュー作。小鳥のさえずりも聞かれる農場で野外録音されたというリリックス効果あふれる雰囲気の中、しとやかに爪弾かれるギターと軽やかなピアノの妙。先ごろメンバーのGTMーアが、HERON解散後すいぶん経ってリー・ペリーー派とセッションをやった、秘蔵DUB音源が発掘された。昔から彼の目指す音は、ジャンルを問わず快楽指数が高い気がする。

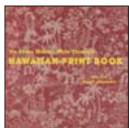
4.



Moonchild / Voyager (Tru Thoughts / TRUCD341)

LAの新世代なスムーズ・ソウルを聴かせる2017年の3作目。スティヴィー・ワンダーやロバート・グラスパーとも共演を果たしたこのトリオが繰り出すサウンドは、どこか人懐っこく、エリカ・パドゥの名作「Baduizm」感に満ちている。紅一点のアンバー・ナヴラン嬢のおやかな歌とメルティなエレクトリック・ピアノが、身体を内側からぼかぼかさせてくれるからかもしれない。

5.



Da Aloha Music - Mele Through Hawaiian Print Book / Various Artists (Rambling / RBPC-3229)

ちょうど今の時期のハワイは雨季の最終コーナーにあたる。ぼらぼらと降る雨の後の虹も格別なハワイの街に、いにしえのラジオから流れたであろう懐かしいサウンドをフォーカスした作品。今まであまり紹介されることのなかった70's~80'sの優しくウォームなハワイの若者たちの繰り出す音楽から、ハワイ音楽のレジェンドまでのメロウな楽曲を収録。心地よいラテンやボサノヴァ・タッチの曲もあれば、ホール&オーツ、E.W.&F.なんと山下達郎のカバー曲に至るまで、バラエティーに富んでいる。春は、もうすぐ。